

簡単！自作アシストフック

アシストフックの作り方に正解はありません！
下記の基本的な一例を元にオリジナルのアシストフックに作り手にチャレンジしてみましょう！！

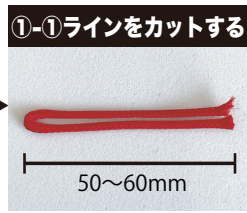
■フック固定型

※特に作業中のフックの取り扱いには十分に注意しケガのないようにして下さい。

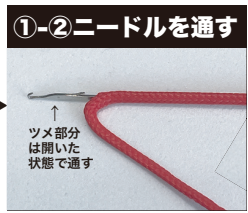
※各種商品に関してはそれぞれのパッケージの記載事項も必ずお読みになり、怪我等のないように正しくご使用下さい。



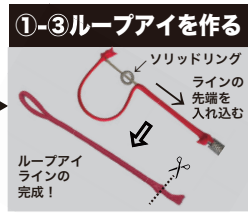
今回はこのようなアシストフックを作製したいと思います。工程は大きく3つに分けていきます。
①ループアイラインを作る
②フックにループアイを取り付ける
③糸巻き部の補強とデコレーション



アシストライン（組糸）をカットする。長さはフックサイズやジグのサイズなどを考慮し決めるが、今回は完成見本写真と同じ物を作るので、ラインを半分にした時50mm~60mm程度にカットする。
※慣れない間は少し長めにカットして下さい



まずアシストラインに芯がある場合は芯を抜き、「アシストニードル」の先端のツメ部分を開いた状態でラインの中空に通し、中間少し手前（今回の場合先端から45mm~50mm位）で貫通させます。
※アイのサイズも考慮して長さを決めます



ツメ部分にラインの先端を引っ掛けてツメを閉じます。そしてゆっくりとライン先端をラインの中に入れ込んで最適なアイの大きさになるまで調整しながら入れていきます。
※アイにソリッドリングを入れる場合はラインの先端をニードルで引っ掛ける前にニードルにリングを通して下さい



フック先端を長さやアイの方向などを確認し、ループアイラインに貫通させます。貫通した部分はチモトのミミ部分に引っかかります。
※貫通させる前にループアイラインを手で伸ばすなどして、しっかりとラインの捻れ等を取り除いて整え、アイの方向などを確認し貫通させて下さい



よりすっぽ抜けけしにくくするためにチモト部分に「タイイングスレッド」で少し下巻きをします。バイスがある場合はフックをバイスにセットし、貫通部分と同じ幅の下巻きが出来たらラインの巻き終わりに貫通部分を含ませ、スレッドをラインの上から下巻きと同じ幅程度巻きつけます。そしてここで一度ラインのアイ側から軽くラインを引っ張るなどしてズレや向きなどを修正します

※この作業時ラッピングスレッドはカットせずに一連を連続して作業を行って下さい



そのままアシストラインとフックをスレッドで固定していきます。スレッドを巻くとラインがフックからズレるので、都度ラインを引っ張るなどして調整しながら巻いて下さい。ある程度まで巻いたら、余分なラインをカットした後更にカットしたラインの最後までスレッドを巻きつけてしっかりと固定下さい

※スレッドを巻く際はスレッドが切れない程度にしっかりと締め込むように縛りつけて下さい。



スレッドでの固定が完了したら、2~3回程度ハーフヒッチで仮止めし、瞬間接着剤で仮止めします。これはハーフヒッチ部分の仮止めなので、瞬間接着剤は点付けて十分なのでスレッド部分全体にはつけないで下さい。

※スレッドの補強は次の工程で行うのであくまでも仮止めとして行います



最後に「タイイングスレッド」を巻いた部分全体の補強を行います。「スレッドコート」でスレッド部分全体にコーティングして下さい。1回ではなく3回程度に分けて塗って下さい。塗料が硬化したら完成です！

※タコベイトなどのプラスチック製品をチモトに被せたりする場合、塗料の成分により溶かしてしまうことがあります。その場合は最後のコーティングにだけ「ウレタンフィニッシャー EX10ml」や「UVレジン」などでコーティングすることで防げます。

補足

なぜ②-①の時わざわざフックを貫通させるのか？

今回使用しているアシストラインは組糸と言われる糸を編み合わせて一本のラインに仕上げられています。構造上ラインを引っ張れば締まって細くなる性質があります。この性質を利用して魚がかかった時に引っ張られてラインが締まりすっぽ抜けけしにくくなります。逆に、次で紹介する下巻きをしてして抵抗を発生させてそこに巻きつける方法だと、引っ張られた時ラインは細くなり、抵抗がより少なくなります。よってより安心感を求めるならベストな方法だと考えます

■摩擦固定型

アシストラインにフックを貫通させられない場合等は、上記②-①~②-③の手順を左の②-④の工程に置き換えて作業を行って下さい。シャंकに「タイイングスレッド」で下巻きを行い、摩擦抵抗で固定する方法です。その他手順は上記と同様です



チモト部分から「タイイングスレッド」で下巻きをします。シャंकの1/2~2/3程度まで下巻きを行い、その後アシストラインの位置を調節しながらフックの内側に乗せ、上記写真くらいまで巻きつけたら再度ラインのアイ側から軽くラインを引っ張るなどしてズレや向きなどを修正し、隙間ないように最後に最後までスレッドを巻きつけて下さい

※この作業時ラッピングスレッドはカットせずに一連を連続して作業を行って下さい

これら2つの基本型をマスターすれば、あとは応用としてダブルフック等様々なアシストフックをに應用することが出来ます。自分だけのオリジナルアシストフックを完成させて下さい！

WEBサイトでは上記内容を動画で配信中！

TOHO, Inc.
http://www.fishing-toho.com/
06-6956-1317



『HOW TO』

アシストフックの自作するとこんなことも出来る

「タイイングスレッド」には多くのカラーがあるので、チモト補強と同時にバイトマーカースの役割を持たせられます！



「ダイアカラー」には多くのカラーがあるので、チモト補強と同時にバイトマーカースの役割を持たせられます！



※「ダイアカラー」でカラーリングする場合は、③-②の3回目時（最終）に塗るか、もしくは少し専用うすめ液で粘度を落としスレッドに塗料が染み込み易くしてから数回塗り重ねて下さい

「オーロラスレッズ」 ケイムラ、夜光などカラフルなティンセルでアビール！

※「オーロラスレッズ」でデコする場合は、②-③の工程後、「タイイングスレッド」はカットせずに引き続き「オーロラスレッズ」を適量スレッドで巻いていきます。但し、右写真のようにスレッドのカラーを変える場合は、ハーフヒッチで数回結んでから、「オーロラスレッズ」を適量スレッドで巻いていきます。

自作することでアシストフックの構造が理解でき、製作や実釣に対する理解も更に深まる！



『オーロラスレッズ』



『タイイングスレッド』



『ダイアカラー』